

竹前栄治教授退任記念号の発刊に寄せて

現代法学部長 島 田 和 夫

竹前栄治教授は、2004年3月に本学を退職されました。先生は本学の専任教員として1974年4月に着任され、以来30年の長きにわたって本学で教鞭をとられました。長年にわたって本学の教育研究活動にご尽力されたことに対し、深く感謝申し上げます。

竹前先生は1930年に長野県須坂市でお生まれになり、1955年東京教育大学文学部社会科学科を卒業され、その後、東京都立大学大学院社会科学研究科に進まれました。さらに、EWC奨学金により、1964年から1966年にかけてハワイ大学大学院およびカリフォルニア大学大学院に留学し、日本占領史を研究され、1968年に東京都立大学大学院博士課程を単位取得満期退学されました。先生は1971年に、「アメリカ対日労働政策の研究」により、東京都立大学大学院から法学博士の学位を取得されました。先生は、中央大学法学部非常勤講師などを経て、1974年4月に本学経済学部教授に就任し、2000年4月からは現代法学部教授となられ、ご退任まで本学において教育・研究に打ち込んでこられました。この間、先生は研究・教育の面での本学への貢献はもとより、研究委員会委員、図書委員会委員、学長候補者推薦委員会委員、自己点検基本事項検討委員会委員などを務められ、大学運営の面でもご活躍されました。先生は本学の法学政治系教員の重鎮のひとりとして重要な役割を果たされ、現代法学部開設に当たっては、その基礎づくりのために尽力されました。本学は、先生のこれらのご功績に対し、2001年5月には名誉

竹前栄治教授退任記念号の発刊に寄せて

教授の称号を授与しました。

ところで、竹前先生の主な専攻は現代政治、とくに日本占領に関する研究で、1972年には、学内外の研究者を組織して日本占領史研究会を設立され、その初期10年間にわたって代表を務められ、この研究分野の草分けのひとりとなりました。2002年には、その占領研究の集大成を英文の著書“Inside GHQ”として刊行され、国際的な評価を得ておられます。また、日本国際政治学会の評議員を10年余り務められるなど、学外においても広くご活躍されました。先生は、1980年頃から失明状態となられたにもかかわらず、それまでの占領研究に加えて、新たに障害者政策研究にも取組まれるなど、精力的に研究教育活動に励まれ、私ども後輩に研究者および教育者としての範を示されました。先生は本学退職後においても、占領研究と障害者政策の研究をライフワークとして精力的に進めておられます。今後もご健康に留意され、益々ご活躍されることを祈念いたします。

なお、この記念号に対しては、天川晃放送大学教授、岡部史信創価大学助教授、および三宅明正千葉大学教授から特別にご寄稿をいただきました。先生方のご厚意に対し、心からお礼申し上げます。